第 212 回　新宿区の嘉茂勝治像と小菅丹治像

筆者：林　久治（記載：2022 年 12 月 12 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は Random Walks （乱歩）という題名で偏屈老人（林久治）の気侭な紀行文のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団（1）のサイト/）の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいるので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要不可欠である。昨年の末には感染者数が激減し、「これで流行は終息か？」と期待していた。所が、本年になって第 6 波が到来してしまった。2 月 3 日には、日本全国の新規感染者数は、過去最高の 104,334 名に達した。しかし、これをピークとして新規感染者数は徐々に減少して、6 月 23 日には 16,670 名にまで減少した。

私は第 4 回目の予防接種を 7 月 8 日に受けることが出来た。そこで、私は 7 月 16 日からの連休後に大阪に行って、孫達と遊ぶことを計画した。しかし、6 月末から第 7 波が到来して、新規感染者数が急激に増加し始めたので、残念ながら私は大阪行きを中止した次第である。その間、新規感染者数は急激に増加し、8 月 3 日には過去最高の 249,789 名にまで達した。これは、当日の世界最高値であった。

東京地方の猛暑は例年以上で、7 月初旬から最高気温は連日 35℃以上であった。従って、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、8 月 4 日から 6 日までは大変涼しくなったので、6 日には東京でも銅像探索を再開した。 9 月初旬、私共は大阪に滞在し、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってからも、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、2）のサイト/f から閲覧出来ます。

私が色々な学校の HP を見ていると、新宿調理師専門学校（3）のサイト/）の玄関ホールの一角に 1 基の銅像が写っていることに気付いた。本像は1）のサイト/のみならずネット記事には全く収録されていない新規の銅像であった。そこで今回はダメ元を覚悟で、本像を探索することとした。また、そのついでに、伊勢丹新宿店の屋上庭園にある小菅丹治像も探索することとした。小菅像は1）のサイト/に収録されているが基本情報が記載されていない。本稿はそれらの探索記である。本稿では私の意見などを青文字で、資料の内容などを緑文字で記載する。

（２）新宿調理師専門学校の銅像探索

図１．上：新宿調理師専門学校のアクセス地図、⑥：本校玄関、本図は、４）のサイト/より借用。**下：本校玄関。**

私は 12 月 9 日の午前 11 時前に、新宿調理師専門学校（以後は「本校」と書く、新宿区西新宿 6-5-3）に到着した。図１上に本校のアクセス地図を、図１下には本校玄関の写真を示す。図１上からも分かるように、本校は新宿高層ビル街の一角にあり、校舎は立派なビルであった。５）のサイト/には本校設備の紹介があるが、それらは大変充実しており大変綺麗である。本サイトには、次のように書かれている。

本校ではプロが使用している最新の機器・設備を完備。その機器・設備を利用し、調理技術から製造、接客、販売など実際に現場ですぐに役立つ「プロフェッショナル力」がしっかり身につく充実した設備が本稿には揃っています。

また、本校の評価は最高で、卒業生は帝国ホテルなどの超一流企業に就職している。私は、「ダメ元」と意を決して本校の玄関に入った。３）のサイト/では、玄関ホールが広く、その一角に１基の胸像が設置されていた。所が、今回玄関ホールに入ってみると、そこは大変狭かった。胸像も見当たらなかった。ホールの横にレストランがあった。私は６）のサイト/で、本校に新しくレストランが出来たことを知っていた。そこには、次のように書かれていた。

2022 年 11 月 1 日より、当校に学生レストランがオープンしました！ 生徒も実践の学びができる場所です。保護者様や入学検討中の方はもちろん、近隣地域の方など広く一般の方にもご利用いただけます！ぜひ皆さまお越しください。

私は「広い玄関ホールをレストランに改装したのだな」と悟った。では、件の胸像はどうなったのであろうか。私は狭い玄関ホールに居た一人のオジサンに聞いてみた。

私「すみません！ここに銅像があることをホームページで拝見したのですが、ありますか？」

男「以前はありましたが、今は別の部屋に移しました。」

私は彼に名刺を差し出して、こう尋ねた。

私「私は定年退職後の趣味で、全国の銅像をデーターベース化する作業に参加しています。ここの銅像を拝見出来ますか？」

男「いいですよ！こちらに来て下さい。」

彼は私を玄関ホールの奥にある図書室に案内して下さった。綺麗な図書室の奥に１基の胸像があった。私は彼の許可を得て、その写真を撮影することが出来た。その写真を次ページの図２上に示す。本像は壁の前に設置されていたので、本像の背面は見えにくかった。私は背面を覗き込んで、彼にこう言った。

私「銅像の背面には、制作者のサインがあることが多いです。ちょっと拝見できますか？」

彼は胸像を回して下さって、こう言った。

男「そんな物が書かれているなんて、知りませんでした。」

私「この作家は有名な方ですよ。」

私は本像背面を撮影することが出来た。その写真を図２下に示す。そこには「立体写真像代表者　盛岡公彦」と書かれていた。

本像周辺には、上記以外の案内文はなかった。そこで、私は彼にこう尋ねた。

私「この銅像の方のお名前と経歴を教えていただけますか？」

男「いいですよ！こちらに来て下さい。」

彼は図書室の隣室に私を案内して下さった。そこは立派な部屋で、彼は私に名刺をくれた。そこには「学校法人新宿学園　新宿調理師専門学校　理事長　関川恵一」とあった。私は偶然にも本校の理事長に声をかけ、理事長は私を親切に案内して下さった次第であった。感謝、感謝、である。

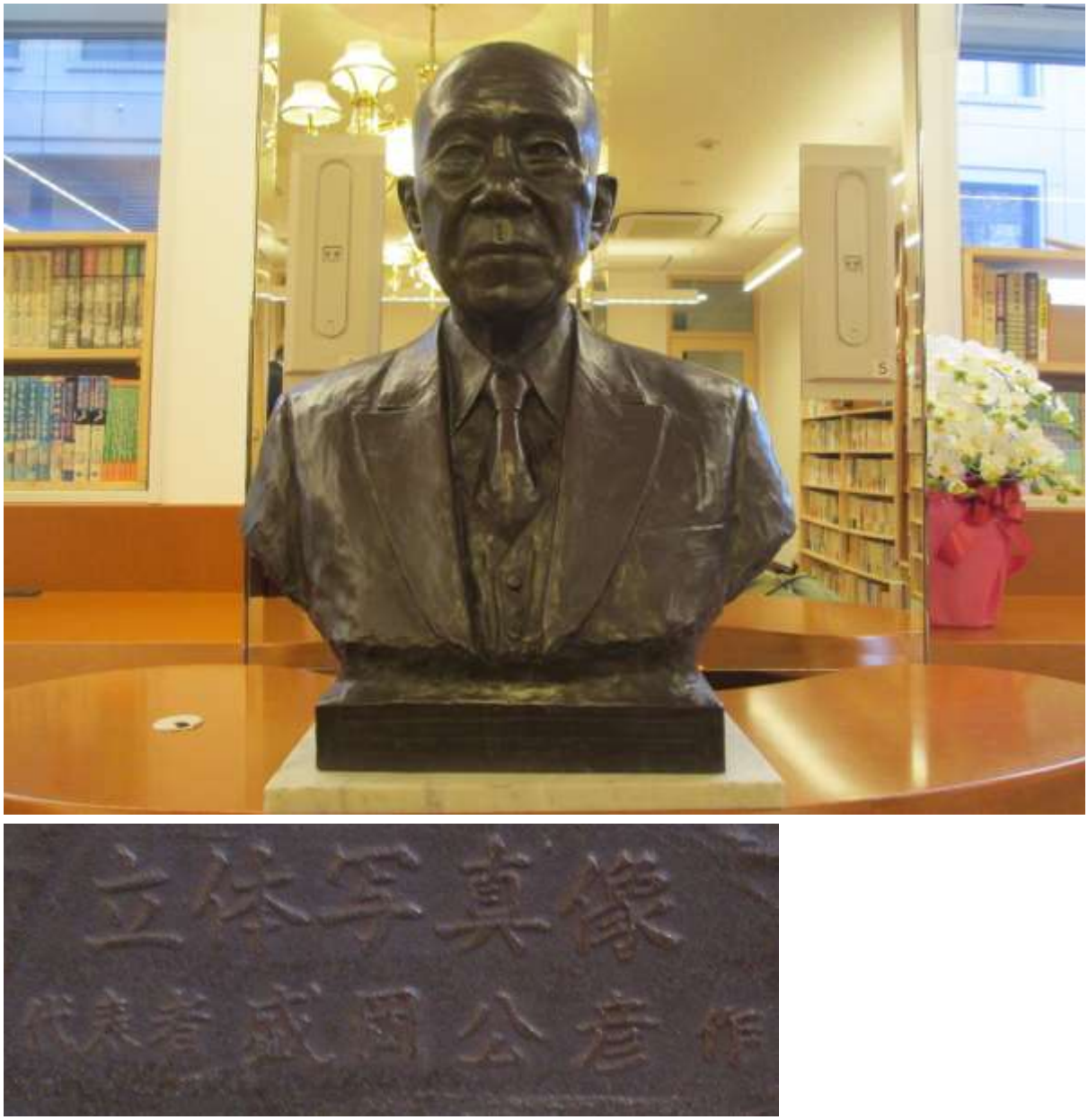

図２．上：新宿調理師専門学校の図書室にあった胸像、下：本像背面のサイン。

関川理事長は１枚のメモを渡して下さった。そこには、次のように書かれていた。

嘉茂勝治（創設者）

東京バーデンダースクールより、本学園を調理師科として創設。

私は「本校に嘉茂氏の経歴を書いた文書があるのではないか」と思っていたが、どうも無さそうである。理事長は私にこう言われた。

理事長「後であなたの住所に、創設者の経歴を送りますから。」

理事長は私を玄関ホールまで送って下さった。そこで、私は彼の写真を撮影されていただいた。その写真を次ページの図３に示す。本図より、本校は「皇居勤労奉仕」も行っていることが分かった。銅像探索に行くと、往々にして素気無く断られる場合が少なくないのであるが、今回のように親切に対応して下さると、「流石に、

新宿高層ビル街に立派な校舎を所有している学校に相応しい品格がある」と本校の増々の発展が見えるようです。

図３．本校の玄関ホールにおける関川恵一理事長

7）のサイト/には、本校の沿革、校是、社会活動が書かれている。嘉茂氏のネット記事は、８）のサイト/1しかなかった。それは「月刊食生活の 1974 年 7 月号」でそこに彼は「なつかしい味 12 カ月」と題する記事を書いている。後日、関川理事長から嘉茂氏の資料を送っていただいた。以上の資料などにより、嘉茂像の概要は次の通りである。

嘉茂勝治氏胸像

設置場所：東京都新宿区西新宿 6-5-3　新宿調理師専門学校図書室

制作者：立体写真像代表者　盛岡公彦

設置日：不明

設置経緯：嘉茂勝治氏（?-1986.9）は、若い頃は千疋屋に務めていたが、東京バーテンダースクール（新宿調理師専門学校の前身）を創設。両校の沿革は次の通りである。

1964 年 3 月、嘉茂氏は新宿区柏木 1-32 に鉄筋コンクリート（地下 1 階、地上 3 階）の校舎を建設し、東京バーテンダースクール調理師科（昼間部 50 名）を設立。厚生大臣から調理師養成施設の指定を受ける。新宿区淀橋 666 に十二社寮を建設、柏木寮・豪徳寺女子寮を設置。

1965 年 3 月、同科に夜間部 50 名を設置。

1966 年 3 月、校舎を増築し、昼間部 120 名・夜間部 120 名に変更。

1966 年 8 月、校名を「新宿調理師専門学校」と改称、各種学校の認可を受ける。

1967 年 3 月、杉並区高円寺南 4-37-8 に「嘉茂学園調理師専門学校高円寺調理師科」（昼間部 120 名・夜間部 120 名）を設置。

1984 年 2 月、学校法人「嘉茂学園」を設立し、嘉茂氏が理事長に就任。

1986 年 9 月、嘉茂氏が逝去。

1989 年 4 月、学校法人名を「新宿学園」と改称。

1991 年 3 月、十二社校舎を都市再開発のため譲渡。

1992 年 3 月、新校舎完成（鉄筋コンクリート 6 階建、延面積 3188.29m2）。新宿調理師専門学校の全機能を新校舎に移転。

校是(教育目的）：私たちは、お預かりした大切な生徒に、人としての倫理・道徳を躾け、調理師として必要な知識・技能を授け、社会に望まれる人財を養成する。

社会活動：宮内庁御用、新宿警察署（若き防犯ボランティアシャイニングスターズ　会員校）、NPO 法人（日本を美しくする会　会員校）、城南信用金庫（“よい仕事おこしフェア”実行委員会　包括連携校）

私が嘉茂像を探索した印象は、嘉茂氏の情報が現在の本校にあまり伝わっていない事である。その原因は、氏の没後に本校の経営権が他人に渡ったからでないだろうか？そのため、氏の生年や出身地が伝わっていないようである。私が最も知りたいのは、1964 年に氏が鉄筋の立派な校舎を建設した資金の出処である。

（３）伊勢丹新宿店の小菅丹治像

私は新宿調理師専門学校で銅像探索を行った後、伊勢丹新宿店に行って小菅丹治像の探索を行った。本像は大変有名で、１）のサイト/に収録されているが、制作者名などの基本情報が記載されていなかった。

図４に、伊勢丹新宿店・屋上庭園の一角の写真を示す。ここには、小さな神社と胸像があった。次ページの図５上に、小菅丹治像の周辺写真を示す。流石に、伊勢丹！店祖の銅像周辺は綺麗に整備されていた。

図４．伊勢丹新宿店・屋上庭園の一角　　（本文は、８ページに続く。）

図５．上：小菅丹治像の周辺、下左：小菅丹治像、下右：台座正面の題字。

図５下左に小菅丹治像、図５下右に台座正面の題字を示す。題字には「店祖　小菅丹治翁像」とあった。図６上には、本像背面の制作者サインを示す。それには次のように書かれていた。

牧田祥哉　飯田喜代鏡　協作　平野吉輔　鋳

また、台座背面には１枚の銘文があった。その写真を図６下に示す。なお、当所の小菅像は戦前に制作されたわりには大変綺麗であった。それは、2021 年に着色修理されたからである（９）のサイトによる）。

図６．
上：本像背面の制作者サイン、
下：台座背面の銘文。

牧田祥哉氏の経歴を示すネット記事は殆どない。ただ、10）のサイトに、次のような記事があった。

牧田祥哉 は 1930 年代に梅屋庄吉の依頼で「孫文像」を制作。同一原型の像が次の４ヶ所に現存する。

広州市・中山大学 http://ynu-gsp.jp/gsp2016/chiSV/article_chiSV-01.html

広州市・黄埔軍官学校跡
http://blog.livedoor.jp/naniyuutorimannen/archives/1841970.html

南京市・中山陵 https://4travel.jp/travelogue/10642826

マカオ・孫中山紀念館（澳門國父紀念館）
http://hashim.travel.coocan.jp/makao/makao102.html

孫文の銅像で知られる牧田祥哉（1880－1946）は、東京生、本名は重雄。叔父の河村嘉祥に師事後、美校彫刻科撰科卒。東京鋳金会や東京彫工会で活躍後、銅像制作を中心に活動した。

牧田氏は「孫文像」の制作を依頼されたのだから、当時は有名な彫刻家であったのであろう。飯田喜代鏡の経歴を示すネット記事はさらに少ない。ただ、11）のサイト/1 に、次のような記事があった。

飯田喜代鏡（1902-1979）清水南山に師事

平野吉輔に関するネット記事も、10）のサイト以外には無い。多分、平野氏は市井の鋳物工場の主人であったのであろう。

ウィキペディアには、初代小菅丹治の記事はない。大企業の店祖としては珍しいことである。しかし、丹治翁は超有名人なので、彼の経歴に関する記事は多い。それらの代表例を以下に示す。

https://shashi.shibusawa.or.jp/details_nenpyo.php?sid=8060

(株)伊勢丹『伊勢丹百年史 ： 三代小菅丹治の足跡をたどって』

https://www.csm.or.jp/wp/100-2/kosuge_tanji/

伊勢丹の代々の経営者は小菅丹治の名を継承している。ここに紹介する初代は店祖と呼ばれている「伊勢屋丹治呉服店」を創業した。

https://president-one.com/20170404/1861

時代を先取り、ファッション伊勢丹の礎を築いた創業者・小菅丹治。小菅丹治は、江戸時代の安政 6 年（1859 年）、相模国（現在の神奈川県）の農家、父　野渡半兵衛、母イチの四男として生まれました。幼少期は、寺子屋に通い、家の手伝いをしていました。嫡男でなかったので、明治 4 年（1871 年）、12 歳で丹治は、本郷の伊勢屋で知られた日野島庄兵衛の経営する伊勢庄での丁稚奉公が始まりました。丹治は、研究熱心で努力家であったので、15 年間の奉公で、伊勢庄で番頭にまで昇進していきました。そんなある日、得意先の伊勢又の経営者　小菅又右衛門に見込まれ、又右衛門の長女　華子の婿となり、小菅丹治となりました。丹治の子供が全員女子であった為、婿養子をとり、長女ときの婿、儀平を鍛え上げて、後継者とし、社員には、「伊勢丹店憲三綱五則」を纏め上げ、社員の商人としての心構えを遺して、大正 5 年（1916 年）、丹治は 58 歳で亡くなりました。

なお、百貨店「伊勢丹」を創業したのは二代小菅丹治である。彼も初代丹治の呉服店に丁稚奉公に出て、子供の頃から鍛え上げられた。11）のサイト/9 に、次のような記載がある。

「帯と模様の伊勢丹」との評判を得た人気呉服店を、百貨店に進化させた“中興の祖”は2代目小菅丹治（1882年4月27日～1961年9月16日）だ。関東大震災を経て、1924年3月に百貨店形式とし、30年に株式会社伊勢丹に改組、33年には新宿本店を開店した。

以上の資料などにより、小菅像の概要は次の通りである。

小菅丹治胸像

設置場所：東京都新宿区新宿3-14-1　伊勢丹新宿店・屋上庭園

原像制作者：牧田祥哉（東京出身、1880－1946）と飯田喜代鏡（1902-1979）の協作

鋳造：平野吉輔

設置日：1940年9月25日

設置経緯：小菅丹治氏（初代、1859-1916）は相模国円行村(現神奈川県藤沢市湘南台)の農家の四男に生まれる。生名は野渡丹治。1871年、12歳で本郷の日野島庄兵衛が経営する伊勢庄に丁稚奉公。1881年、神田区旅龍町の米穀商伊勢又の小菅又右衛門に見込まれ長女華子の婿となる。1886年11月5日、奉公先の伊勢庄から独立し、神田区旅龍町二丁目に呉服商「伊勢屋丹治呉服店」を開業し、百貨店「伊勢丹」の基礎を確立。

本像台座背面の碑文に以下の記載がある。

我店祖　小菅丹治翁以安政六年生神奈川縣年甫十二出干東京従事商業自明治十九年開伊勢丹呉服店於神田旅篭町至大正五年之長逝前後卅年忠實服業勤倹治産遂確立伊勢丹百貨店之大基礎以至今日之旺盛眞可謂偉矣因茲鑄清容以不朽之旦欲傳其成業於後昆云爾

紀元二千六百年　昭和十五年九月廿五日　常務取締役　林田　操誌

参考資料

1）のサイト：https://douzou.guidebook.jp/

2）のサイト：http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf

3）のサイト：https://www.shincho.ac.jp/outline/message/

4）のサイト：https://www.shincho.ac.jp/outline/access/

5）のサイト：https://www.shincho.ac.jp/outline/facility/

6）のサイト：https://www.shincho.ac.jp/20221101open-restaurant-sen/

7）のサイト：https://www.shincho.ac.jp/outline/history/

8）のサイト：https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2734489?tocOpened=1

9）のサイト：小菅丹治翁像 着色修理【X】/株式会社竹中銅器 (takenakadouki.com)

10）のサイト：(20) #牧田祥哉 - Twitter Search / Twitter

11）のサイト：https://yuagariart.com/artist-labo/04.html